



平成 20 年 4 月 18 日

各 位  
会 社 名 株式会社ティール・ワイ・オー  
代 表 者 名 代表取締役社長兼グループ最高経営責任者  
吉 田 博 昭  
( J A S D A Q ・ コード番号 : 4358 )  
問 い 合 せ 先 取締役兼グループ執行役員 経営戦略担当  
上 窪 弘 晃  
電 話 番 号 03-5434-1586

## 平成 20 年 7 月 期 中間決算短信の一部訂正に関するお知らせ

平成 20 年 3 月 17 日付で発表した「平成 20 年 7 月 期 中間決算短信」の内容に一部訂正がありましたので、下記の通りお知らせいたします。

### 記

訂正箇所（訂正箇所には下線を付しております。）

#### I. 2 ページ

##### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） 有  
(訂正前)

新規 2社（社名 株式会社TYOプロダクションズ、株式会社円谷プロダクション）

除外 一社（社名一）

(注) 省略

(訂正後)

新規 3社（社名 株式会社TYOプロダクションズ、株式会社円谷プロダクション  
ナイトウィザード製作委員会）

除外 一社（社名一）

(注) 省略

## II. 3 ページ

### 1. 経営成績

#### (1) 経営成績に関する分析

##### ① 広告映像事業

(訂正前)

(単位：千円)

	平成19年3月中間期	平成20年1月中間期	増減	前年同期比
売上高	7,293,427	<u>8,271,796</u>	<u>978,368</u>	<u>13.4%</u>
(外部売上高)	7,263,404	<u>8,078,514</u>	<u>815,109</u>	<u>11.2%</u>
(セグメント間売上高)	30,022	193,281	163,259	543.8%
営業費用	6,697,260	<u>7,744,115</u>	<u>1,046,855</u>	<u>15.6%</u>
営業利益	596,166	<u>527,680</u>	<u>△68,486</u>	<u>△11.5%</u>

広告映像事業につきましては、TV-CM制作市場規模はほぼ横ばいの中、大手制作会社への寡占化が進んでいます。当社グループは大手制作会社の1社として、業界内での更なるシェアアップを目指し積極的に事業展開いたしました。その結果、前期比で大幅増となる等好調に推移いたしました。

TV-CMの企画・制作におきましては、株式会社TYOプロダクションズを中心に、株式会社エムワンプロダクション、株式会社Camp KAZ及び株式会社キラメキの好調により、連結利益に貢献いたしました。株式会社TYOプロダクションズにおいては、積極的な営業展開及び制作力の強化を図った結果大型案件を受注する等、平成19年8月1日付で当社から新設分割し、TV-CMの企画・制作事業により注力できる体制を構築した効果が早くも現れてきております。

広告の企画・プロデュースにおきましては、株式会社1st Avenueが売上高、利益ともに目標を上回るなど連結利益に貢献いたしました。マーケティング・コミュニケーションを手掛ける株式会社ゼオも堅調に推移しております。

なお、当中間連結会計期間において、不採算会社であったOKプラン&プロデュース株式会社を株式会社TYOプロダクションズに、ストラテジア株式会社を株式会社1st Avenueに、それぞれ吸収合併いたしました。同不採算会社2社を吸収合併したことで、当社の連結決算・単独納税方式による税務インパクトへの低減が見込めます。

以上の結果、広告映像事業の売上高は8,271百万円（前年同期比13.4%増）、営業利益は527百万円（同11.5%減）となりました。なお、販売費及び一般管理費には、M&Aによるのれん償却額38百万円が含まれております。

(訂正後)

(単位：千円)

	平成19年3月中間期	平成20年1月中間期	増減	前年同期比
売上高	7,293,427	<u>8,624,505</u>	<u>1,331,077</u>	<u>18.3%</u>
(外部売上高)	7,263,404	<u>8,431,223</u>	<u>1,167,818</u>	<u>16.1%</u>
(セグメント間売上高)	30,022	193,281	163,259	543.8%
営業費用	6,697,260	<u>8,068,402</u>	<u>1,371,142</u>	<u>20.5%</u>
営業利益	596,166	<u>556,102</u>	<u>△40,064</u>	<u>△6.7%</u>

広告映像事業につきましては、TV-CM制作市場規模はほぼ横ばいの中、大手制作会社への寡占化が進んでいます。当社グループは大手制作会社の1社として、業界内での更なるシェアアップを目指し積極的に事業展開いたしました。その結果、前期比で大幅増となる等好調に推移いたしました。

TV-CMの企画・制作におきましては、株式会社TYOプロダクションズを中心に、株式会社エムワンプロダクション、株式会社Camp KAZ及び株式会社キラメキの好調により、連結利益に貢献いたしました。株式会社TYOプロダクションズにおいては、積極的な営業展開及び制作力の強化を図った結果大型案件を受注する等、平成19年8月1日付で当社から新設分割し、TV-CMの企画・制作事業により注力できる体制を構築した効果が早くも現れてきております。

広告の企画・プロデュースにおきましては、株式会社1st Avenueが売上高、利益ともに目標を上回るなど連結利益に貢献いたしました。マーケティング・コミュニケーションを手掛ける株式会社ゼオも堅調に推移しております。

なお、当中間連結会計期間において、不採算会社であったOKプラン&プロデュース株式会社を株式会社TYOプロダクションズに、ストラテジア株式会社を株式会社1st Avenueに、それぞれ吸収合併いたしました。同不採算会社2社を吸収合併したことで、当社の連結決算・単独納税方式による税務インパクトへの低減が見込めます。

以上の結果、広告映像事業の売上高は8,624百万円（前年同期比18.3%増）、営業利益は556百万円（同6.7%減）となりました。なお、販売費及び一般管理費には、M&Aによるのれん償却額38百万円が含まれております。

④エンタテインメント事業

(訂正前)

(単位：千円)

	平成19年3月中間期	平成20年1月中間期	増減	前年同期比
売上高	2,433,197	<u>4,055,808</u>	<u>1,622,611</u>	<u>66.7%</u>
(外部売上高)	2,414,201	<u>4,011,528</u>	<u>1,597,326</u>	<u>66.2%</u>
(セグメント間売上高)	18,995	44,280	25,284	133.1%
営業費用	2,496,771	<u>3,641,772</u>	<u>1,145,000</u>	<u>45.9%</u>
営業利益	△63,574	<u>414,036</u>	<u>477,611</u>	—

エンタテインメント事業につきましては、コンピュータグラフィックス(以下「CG」という。)制作を行う株式会社デジタル・フロンティアは、映画制作等の大型案件を受注するなど好調で、売上高、利益ともに目標を大幅に上回り連結利益に貢献いたしました。

アニメーション制作を行う株式会社ハルフィルムメーカーは売上高目標未達により、連結利益の減少要因となりました。今後は早期に連結利益に貢献できる体制を構築してまいります。株式会社ゆめ太カンパニーは、予定していた検収時期が通期にずれたことで、業績目標未達となりました。株式会社動画工房は好調に推移しております。

ゲーム制作を行う3社は全体で売上高、利益ともに業績目標未達となりました。このような状況を受け、当中間連結会計期間において、ゲームソフトの営業・宣伝・広告・販売に特化した株式会社Genterprise(ジェンタープライズ)を新たに立ち上げました。同社が販売促進活動を一括で行うことで、制作会社はより企画・制作に注力することが可能となります。今後は連結利益へ貢献できる体制を構築してまいります。

キャラクター制作におきましては、平成19年10月にグループ化した株式会社円谷プロダクションの企業再建の効果が当初予想より早期に現われてきております。また、同社のライツビジネスが好調に推移し、連結業績への貢献を果たしました。

音楽映像の制作を行う株式会社祭は堅調に推移し、売上高、利益ともに目標を達成いたしました。

放送番組制作を手掛ける株式会社博宣インターナショナルは、売上高、利益ともに目標未達となりました。今後は同社のブランドを活かし、レギュラー番組の獲得による利益状況の好転を図ってまいります。

以上の結果、エンタテインメント事業の売上高は、4,055百万円(前年同期比66.7%増)、営業利益は414百万円(前年同期は63百万円の赤字)となりました。なお、販売費及び一般管理費には、M&Aによるのれん償却額62百万円が含まれております。

(訂正後)

(単位：千円)

	平成19年3月中間期	平成20年1月中間期	増減	前年同期比
売上高	2,433,197	<u>4,105,609</u>	<u>1,672,412</u>	<u>68.7%</u>
(外部売上高)	2,414,201	<u>4,061,329</u>	<u>1,647,128</u>	<u>68.2%</u>
(セグメント間売上高)	18,995	44,280	25,284	133.1%
営業費用	2,496,771	<u>3,708,739</u>	<u>1,211,968</u>	<u>48.5%</u>
営業利益	△63,574	<u>396,870</u>	<u>460,444</u>	—

エンタテインメント事業につきましては、コンピュータグラフィックス(以下「CG」という。)制作を行う株式会社デジタル・フロンティアは、映画制作等の大型案件を受注するなど好調で、売上高、利益ともに目標を大幅に上回り連結利益に貢献いたしました。

アニメーション制作を行う株式会社ハルフィルムメーカーは売上高目標未達により、連結利益の減少要因となりました。今後は早期に連結利益に貢献できる体制を構築してまいります。株式会社ゆめ太カンパニーは、予定していた検収時期が通期にずれたことで、業績目標未達となりました。株式会社動画工房は好調に推移しております。

ゲーム制作を行う3社は全体で売上高、利益ともに業績目標未達となりました。このような状況を受け、当中間連結会計期間において、ゲームソフトの営業・宣伝・広告・販売に特化した株式会社Genterprise(ジェンタープライズ)を新たに立ち上げました。同社が販売促進活動を一括で行うことで、制作会社はより企画・制作に注力することが可能となります。今後は連結利益へ貢献できる体制を構築してまいります。

キャラクター制作におきましては、平成19年10月にグループ化した株式会社円谷プロダクションの企業再建の効果が当初予想より早期に現われてきております。また、同社のライツビジネスが好調に推移し、連結業績への貢献を果たしました。

音楽映像の制作を行う株式会社祭は堅調に推移し、売上高、利益ともに目標を達成いたしました。

放送番組制作を手掛ける株式会社博宣インターナショナルは、売上高、利益ともに目標未達となりました。今後は同社のブランドを活かし、レギュラー番組の獲得による利益状況の好転を図ってまいります。

以上の結果、エンタテインメント事業の売上高は、4,105百万円(前年同期比68.7%増)、営業利益は396百万円(前年同期は63百万円の赤字)となりました。なお、販売費及び一般管理費には、M&Aによるのれん償却額62百万円が含まれております。

Ⅲ. 53 ページ

(セグメント情報)

当中間連結会計期間 (自 平成 19 年 8 月 1 日 至 平成 20 年 1 月 31 日)

(訂正前)

	広告映像 事業 (千円)	WEB 事業 (千円)	エンタテイ ンメント 事業 (千円)	コンテン ツ・ソリュ ーション 事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上 高	<u>8,078,514</u>	1,740,894	<u>4,011,528</u>	389,390	<u>14,220,327</u>	<u>402,510</u>	14,622,837
(2) セグメント 間の内部売 上高又は振 替高	193,281	120,146	44,280	358,484	716,193	(716,193)	—
計	<u>8,271,796</u>	1,861,040	<u>4,055,808</u>	747,875	<u>14,936,520</u>	<u>(313,682)</u>	14,622,837
営業費用	<u>7,744,115</u>	1,797,500	<u>3,641,772</u>	648,853	<u>13,832,241</u>	<u>(135,488)</u>	13,696,752
営業利益又は 営業損失 (△)	<u>527,680</u>	63,540	<u>414,036</u>	99,022	<u>1,104,279</u>	<u>(178,194)</u>	926,085

欄外注記 省略

(訂正後)

	広告映像 事業 (千円)	WEB 事業 (千円)	エンタテイ ンメント 事業 (千円)	コンテン ツ・ソリュ ーション 事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上 高	<u>8,431,223</u>	1,740,894	<u>4,061,329</u>	389,390	<u>14,622,837</u>	—	14,622,837
(2) セグメント 間の内部売 上高又は振 替高	193,281	120,146	44,280	358,484	716,193	(716,193)	—
計	<u>8,624,505</u>	1,861,040	<u>4,105,609</u>	747,875	<u>15,339,031</u>	<u>(716,193)</u>	14,622,837
営業費用	<u>8,068,402</u>	1,797,500	<u>3,708,739</u>	648,853	<u>14,223,495</u>	<u>(526,742)</u>	13,696,752
営業利益又は 営業損失 (△)	<u>556,102</u>	63,540	<u>396,870</u>	99,022	<u>1,115,535</u>	<u>(189,450)</u>	926,085

欄外注記 省略

IV. 82 ページ

6. その他

(2) 受注状況

当中間連結会計期間の受注実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(訂正前)

事業の種類別セグメントの名称	受注高 (千円)	前年同期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同期比 (%)
広告映像事業	<u>9,503,106</u>	<u>120.4</u>	4,986,432	158.7
WEB事業	1,142,831	104.8	675,579	182.0
エンタテインメント事業	<u>4,251,622</u>	<u>213.5</u>	2,649,870	157.6
合計	<u>14,897,559</u>	<u>135.8</u>	8,311,881	160.0

欄外注記 (1) ~ (3) 省略

(訂正後)

事業の種類別セグメントの名称	受注高 (千円)	前年同期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同期比 (%)
広告映像事業	<u>9,855,815</u>	<u>124.9</u>	4,986,432	158.7
WEB事業	1,142,831	104.8	675,579	182.0
エンタテインメント事業	<u>4,301,423</u>	<u>216.0</u>	2,649,870	157.6
合計	<u>15,300,069</u>	<u>139.4</u>	8,311,881	160.0

欄外注記 (1) ~ (3) 省略

(3) 販売実績

当中間連結会計期間の販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(訂正前)

事業の種類別セグメントの名称	金額 (百万円)	前年同期比 (%)
広告映像事業	<u>8,078,514</u>	<u>11.2</u>
WEB事業	1,740,894	93.8
エンタテインメント事業	<u>4,011,528</u>	<u>66.2</u>
コンテンツ・ソリューション事業	389,390	△29.0
合計	<u>14,220,327</u>	<u>27.8</u>

欄外注記 (1) ~ (3) 省略

(訂正後)

事業の種類別セグメントの名称	金額 (百万円)	前年同期比 (%)
広告映像事業	<u>8,431,223</u>	<u>16.1</u>
WEB事業	1,740,894	93.8
エンタテインメント事業	<u>4,061,329</u>	<u>68.2</u>
コンテンツ・ソリューション事業	389,390	△29.0
合計	<u>14,622,837</u>	<u>31.5</u>

欄外注記(1)～(3) 省略

以上